

from

ほうかつ

令和7年7月発行

特集!

檜葉で進む農業と福祉のタッグ 農福連携の取組みをご紹介します!

檜葉町では、令和3年度より「農福連携」の取組みが進んでいます。農福連携とは、「**農業分野と福祉分野がタッグを組むこと**」です。町内の農業経営者、檜葉町役場農林水産課、檜葉町社会福祉協議会等が連携し、①**農作業体験の希望者と受け入れる事業者をつなぐ個別ケース支援** ②**就労継続支援B型事業所の利用者が農作業を行う施設外就労支援** ③**地域の誰もが集う福祉農園**等の取組みが広がっています。地域の多様な人々が役割を担って活躍することは、生きがいや社会参加につながるだけでなく、農業分野において新たな担い手の確保にもつながっています。今回は、町内各地で進む“檜葉ならではの”農福連携をご紹介します!

ゆず太郎が解説!

な ら は の 農 福 連 携

農作業の内容は多岐にわたりますが、例えば「苗や肥料の運搬」「イチゴの葉取り作業」「段ボール箱の組立て」等、作業を分割してみると、「その部分ならできる!」という作業が増えていきます。農作業を通して、自分のやりがいや社会参加の機会が生まれることが農福連携の大きなポイントです。

農業×福祉

タッグを組んで!

農業経営者
(水稲)

苗、肥料運搬



農業経営者
(甘藷)

苗切り作業



農業経営者
(トマト、イチゴ)

段ボール箱組立て
葉取り作業



福祉農園では、地域の皆さんと一緒に野菜を育てています!

就労継続支援B型事業所
●ふたばの里(檜葉町)
●ワークセンターさくら(広野町)

福祉農園
(檜葉町保健福祉会館)

ゆず太郎が聞く!



農業&福祉関係者にインタビュー! お互いの連携について感想を聞きました!



農業

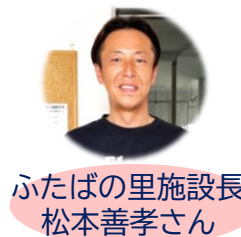
繁忙期にふたばの里やワークセンターさくらの皆さんに作業を手伝ってもらっています。皆さんきちんと仕事をこなしていて、安心して任せることが出来ます。これからも、できる作業と一緒に考え、障がいのある方が“楽しい”と思える場を提供できるように一緒に取り組んでいきたいです。



農業経営者

福祉

ふたばの里では、施設外就労として農作業の依頼をいただいています。農業経営者の皆さんは、障がいへの理解があり、とてもあたたかく迎えてくださっています。作業もひとつひとつ丁寧に教えていただき、利用者の皆さんも楽しみながら作業を行うことができています。



ふたばの里施設長
松本善孝さん

福祉

農業経営者、町役場、ふたばの里、ワークセンターさくら、地域の皆さんと一緒に、様々な取組みを行っています。保健福祉会館にある福祉農園は地域の誰もが参加できる場所となっており、皆で野菜を育てています。農作物を育てる喜びや難しさ、他者との協働、役割、支え合う気持ち等、様々な効果が発見できる活動になるよう進めていきたいです。



檜葉町社協
事務局 佐藤



実は・・・農福連携は檜葉町の地域づくりにもつながっていた!

檜葉町で進めている農福連携は**ズバリ!**地域づくりです。農作業を通して、地域住民、障がい者、認知症高齢者、子どもたちが顔見知りとなり、**地域の支え合いの輪が広がっていくことを目指しています**。地域の誰もが参加できる農福連携は、檜葉町が目指す地域包括ケアシステムの中核となる活動なのです。



“檜葉ならではの”地域づくりについて考えるシンポジウム「ならコレ2024」でも農福連携の取組みを紹介しました。



高齢者・障がい者の総合相談窓口

TEL:0240-25-4155 FAX:0240-25-4156

〒979-0604 檜葉町大字北田字鐘突堂5-5 (檜葉町保健福祉会館3F)

Email: naraha-houkatsu@car.ocn.ne.jp

お気軽にご相談ください。



地域づくりの
今！



大好評！

～おたがいさま講座～

あなたのその行動、地域支え合い活動です！

『おたがいさま講座』は、地域ミニデイなど地域の皆さんに向けた福祉分野の出前講座です。社協職員が演じる寸劇「ある日のミニデイ」を通じて、日常的に地域の皆さんが周りの人を気に掛け合っていたり、支え合いをしていることをお伝えしています。また、檜葉町のボランティアセンターについての現状や役割についてもご紹介しています。



おたがいさま講座の寸劇【ある日のミニデイ】場面…



もの忘れがある
ゆず子さん



前日に声掛け
カレンダー



ご近所同士
乗り合わせ

最近、もの忘れがあるゆずさんは、ミニデイの日を忘れてしまい、しばらくミニデイに参加できていません。

仲の良い近所のゆり子さんは、「明日はミニデイの日だよ～」と教えてくれ、カレンダーにも忘れないように書いておくことにしました。

次の日、ゆり子さんはゆずさん宅へお迎えに行き、いっしょにミニデイに参加することができました♪久しぶりのミニデイをとっても楽しく過ごしました！

認知症になっても、身体が思うように動きにくくなってきても、年齢を重ねていっても…お互いの気に掛け合いや支え合いでこれからも元気に檜葉町で暮らしていける！



上檜岡つつみ会
「おたがいさま講座」の様子

参加した皆さんの感想

「仲の良い人やご近所で気に掛け合っていることもおたがいさまの行動なのだと知りました。これからも続けていきたい。」
「寸劇を見て楽しく、支え合いについて考えることができました。」
「これからはミニデイの中でも参加できていない人に気に掛け合いをしていきたい。」

～おたがいさま講座を通じて～

自分が普段、何気なくお互いを支え合っていることに気づいてくれたり、「自分にもできることをしてみたい！」などのボランティア活動のきっかけになってもらえたらうれしいです。



檜葉町地域包括支援センターでは「おたがいさま講座」をはじめ、「認知症サポーター養成講座」や「認知症の症状や認知症の方への接し方」、「介護保険制度や介護保険サービスについて」等、様々な福祉の出前講座を開催しています。これからも住み慣れた檜葉町で元気に過ごすために、やさしい町づくりを皆さんといっしょに行っていきます！

檜葉町地域包括ケアシステム

まじわる つながる 支え合う リレー

檜葉町地域包括ケアシステムに関わる多様な関係機関をリレー方式で紹介するコーナーです。Jヴィレッジフィットネスクラブからしろはとファームにバトンが繋がりました。

第12走者

しろはとファーム

しろはとファーム
職員のみなさん

しろはとファームでは、さつまいもの育苗、栽培、貯蔵、商品の加工を行っています。2017年から檜葉町でのさつまいも栽培を開始し、2019年に「(株)福島しろはとファーム」が設立されました。現在は、約30人の職員が檜葉町で日々、おいしいさつまいも作りに取り組んでいます。土づくりからはじまり、土地の栄養状態や知識、技術、品種に合った栽培方法や、貯蔵管理等を試行錯誤しながら、さつまいもを作り上げてきました。現在も町民の皆さんの協力をいただきながら開墾地を広げ、年々さつまいもを作る土地の範囲が広がっています。

～地域とのつながり～

檜葉町は気候も暖かく、さつまいも作りにはとても良い環境です。また、檜葉町の貯蔵施設の設備は、徹底した温度・湿度管理のもと、じっくりとさつまいもを熟成するのにとても適した環境です。

【本格的に農福連携が始動！】

繁忙期（4～6月中旬）はどうしても人手不足になります。そこで、福祉分野の事務所へ苗切り作業の業務を依頼しています。現在は、ふたばの里、ワークセンターさくらの利用者の方、檜葉町内に住んでいる高齢者の方たちに働いてもらっています。『しっかりと丁寧に作業に取り組んで貰い、大変助かっています。』（しろはとファーム長井さん談）

～これからの想い～

まず、檜葉町の皆さんに愛されるようなさつまいもをつくり、檜葉特産品としての『さつまいも』を町外、県外の方々にも広く知っていただけるようにがんばりたいです。

しろはとファームでは、収穫祭や苗植え会等のイベントも行っていて、地域の方々に檜葉町の美味しいさつまいもについて知ってもらう機会を作っています。今年も秋頃開催する予定なので、その際はぜひお立ち寄りください！

～みんなのつぶやき～ テーマ「虫対策について」

センター長 江尻

仕事柄「相手の立場」になって考えるクセがあるのですが…最近、虫に遭遇することが多くなり、つい相手(虫)の立場に立って考えたりしてます。いや～、相手(虫)も必死なんですね。

生活支援コーディネーター 小林

虫よけ対策として、虫よけスプレー、汗を拭くetc…していますが、B型も蚊に刺されやすいそうなので覚悟しています。

社会福祉士 岡崎

みなさんはハッカ油を使っていますか？ハッカ油はミントの爽やかな良い香りですが、虫にとっては苦手とする香りなんだとか。この夏は、虫よけ対策としてハッカ油始めてみようと思います♪

看護師 馬上

虫と言えばムカデ…！我が家には頻繁に発生するんです。殺虫剤なんて言ってもらえない。すぐにやつつけなきゃ！！ハエたたきを常備しています。(ハードタイプのものを使用中)